



# 小学生の服薬

小学生（6～12歳）のお子さんは、成長に伴って免疫力がついてきます。そのため、医療機関を受診する回数が減ります。お薬も、粉薬やシロップから、錠剤やカプセル剤へと少しずつ変わっていきます。また、お薬の量も増えて、だんだんと大人の量に近くなります。しかし、すべての薬を大人と同じように飲めるというわけではありません。

小学生のお子さん向けの服薬の基礎知識をまとめてみました。

## 基礎知識

### ① 必ず食後に服用しなければならない薬は少ない

お薬の袋に「食後」と書かれていると、必ず食後に飲まなければならないと考えがちですが、小児の薬では食後に服用しなければならない薬は極めてまれです（食後に服用しなければならないお薬については薬剤師から指示があります）。飲むタイミングで飲ませてください。

### ② 学校で飲めないときは帰宅後でも大丈夫

1日3回朝夕に服用するお薬は、昼の薬を学校で飲む必要があります。しかし、友達の前で恥ずかしい、遊んでいて飲み忘れるなど、飲めないお子さんは少なくありません。そんな時は学校から帰った後に飲ませてください。1日3回のお薬は、それぞれの間隔が4時間以上あいていれば大丈夫です。昼の薬を夕方に飲ませたときは、夕方の薬を寝る前にずらして飲ませてください。1日2回のお薬は、6～8時間以上あければ大丈夫です。

また、小学生になると自分で薬の管理をすることもあります。飲み忘れたときに2回分まとめて飲んだりしないように注意してください。

### ③ 体は大きくなっても子どもは子どもです

お薬の量が大人と変わらなくなってきます。だからといって、大人の薬を飲ませてはいけません。大人の薬の中には、小学生のお子さんは飲んではいけないものもあり、重大な副作用を引き起こす恐れもあります。医療機関で処方された薬だけでなく、市販薬も同様です。飲ませる前に、薬剤師に相談してください。